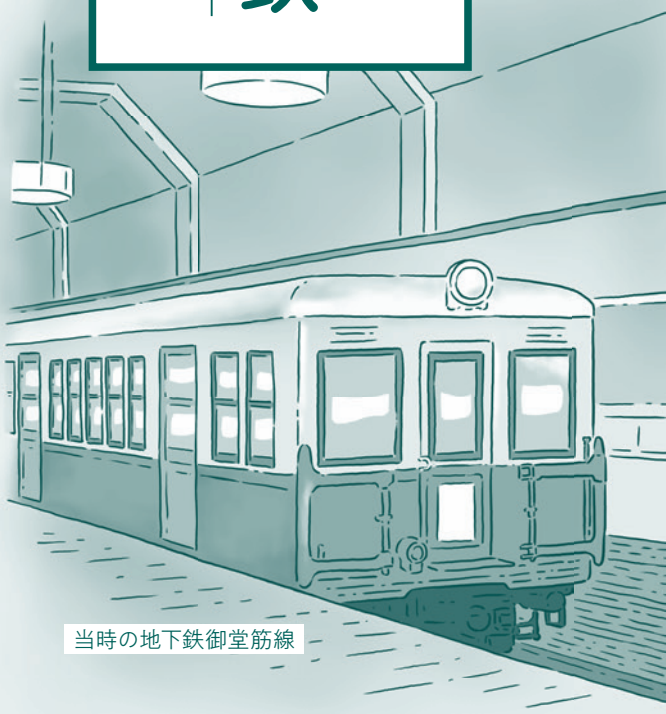
地域の方々と私の命を運んだ地下鉄

河内長野市　細越 初子　82歳

私の戦争体験と言えば、父の出征、そして戦死、空襲で焼き出され、母の実家への疎開、食糧困難など多々ある中で、一番に頭に残っている戦争体験があります。**国民学校**2年生ももうすぐ終え、3年生になる1945年3月13日の**大阪大空襲**のことです。焼夷爆弾が雨が降るごとく投下され、住んでいた家の近場の防空壕から出て、辺り一面炎の海の中を西へ逃れました。御堂筋で妹を背負った母と、母の友人と、その娘の5人で待機することになりました。今では想像もつかないほど逃れて来た人でいっぱいでした。そんな折に、そごう百貨店の上部の破壊があり、逃げ集まっていた人々が一斉に道路に逃げました。その折に母たちと離ればなれになってしまい、戸惑う一心を抱え、多勢の人たちと過ごすことになりました。何時か経って、「地下鉄に乗って梅田へ逃れてください」との呼びかけがあり、梅田へと逃れ、中津国民学校に落ち着くことができました。そこでやっと母のお知り合いの方と出会うことができ、ホッとしました。何日か



当時の地下鉄御堂筋線

●**国民学校**
1941年（昭和16）、それまでの小学校が国民学校に改められた。子どもは、個人の子どもではなく、お国の子どもとして教育され、戦争につながる教育が行われた。

●**大阪大空襲**
第二次世界大戦末期にアメリカ軍により繰り返し行われた大阪市を中心とする無差別爆撃のこと。これらの空襲で一般市民1万人以上が死亡したと言われている。

をそこでお世話になり、出会った方たちと、母校だった大宝国民学校に歩いて帰り、少しはホッとしました。帰りついた学校での思い出は、辺り一面、焼け野原になっていて、あちこちに残っていた倉が爆発し、燃え上がっていたのを今も覚えています。そうこうして何日かを過ごしているうちに、阿倍野区で居住していた祖父が迎えに来てくれ、自転車の荷台に乗せてもらって、祖父の家に落ち着くことができました。母と妹との再会が何日目だったのかは覚えていません。それからも戦争は続いていたので、母の故郷、瀬戸内の島で過ごすことになりました。直接**被爆**の体験はありませんが、**原爆**の投下された時の光は頭に残っています。終戦も島で迎えました。そして大阪に帰って来てからの私たち二人を育て上げる母の苦労も多々見てきました。

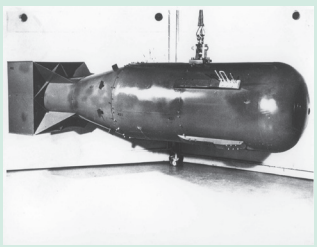
いろいろと思い出されることの多い中で、今の幸せな毎日を過ごすことができているのは、あの地下鉄が動いたおかげでこうして82歳を迎えられているのだと思わずにはいられません。

戦争は絶対にしてはだめです。こういった体験は私たちでおしまい、二度とない世の中になってほしいと願います。

大阪大空襲　写真提供：大阪国際平和センター

●被爆
原爆による被害を受けること。1945年(昭和20)の原爆投下により、その年12月末までの約5か月間に、広島では約14万人、長崎では約7万人が命を奪われた。

●原爆
原子爆弾のこと。ウラン、プルトニウムなど核分裂反応で発生する熱線・爆風・放射線で殺傷、破壊する爆弾。広島では、子どもたちは校庭に並んだまま、通勤者は電車に乗ったまま、主婦たちは家事をしているままの姿で殺りくされた。長崎では、軍需工場に駆り出された生徒たちや多くの市民が倒壊した建物の下敷きとなって圧死し、または生きながら焼き殺された。



リトルボーイ　米国国立公文書館所蔵